

世界史B 近現代 16 西アジア・アフリカの改革(1)

1,19世紀アジア・アフリカ ()1諸国 →アジア・アフリカへの侵略拡大

┌アフリカ、南アジア、東南アジアを中心に→()2化

独立を守った諸国→()3条約を強制→経済的従属を強める

└アジア・アフリカの各地→国民国家としての独立運動が高まる

┌独立を維持した国々→民衆の反乱・改革を求める運動が展開

2,オスマン帝国(1299~1922)

ヨーロッパ勢力の侵略→17世紀末以降支配領域を縮小・支配体制も動揺

1699年 ()4条約 ハンガリーをハプスブルクに。

17世紀 国内経済の成長→広大な帝国領が一つの経済圏に。

農村→綿花、オリーブ、羊毛、食肉の生産拡大

18世紀 ヨーロッパで()5趣味→オスマン文化❖aを高く評価

オスマン→フランスなどヨーロッパ文化(美術・工芸)を積極的に導入

→華やかな宮廷文化=アフメト3世(位1703~30)の「()6時代」

ティマール制を継承した()7制=軍事封土制が衰退⇒地方豪族の徴税請負制へ

⇒中央集権制が弱まり、地方分権化

❖a→オスマンの宮殿、庭園に建てられた()8=ペルシャ語「クシュク」=が18世紀西欧でも庭園に建

設された。また、()9はトルコが原産地で16世紀頃にオランダへ伝わった。

同後半 二度の露土戦争(1768~74 1787~91)❖bに敗れ、アゾフと()10半島を失う

❖b→キュチュク=カイナルジ条約及びヤッシーの講和によりアゾフ海一帯とクリミアを割譲。

19世紀 ヨーロッパ勢力の侵略に抗してアジア諸国の近代化の始まり

エジプト、()11の自立、バルカン地域の独立運動

3,エジプト

1798年 ナポレオン軍カイロ占領⇒オスマン帝国→イギリスの支援を得てこれを排除

ムハンマド=()12❖c=オスマン軍傭兵隊指揮官=1805年エジプト総督(位1805~49)に就任

❖c→オスマン支配下のテッサロニキの生まれ。アルバニア系。アルバニア人傭兵を指揮。

1807年 ()13の戦い⇒エジプトはフランスにかわろうとしたイギリスも撃退

┌()14=軍人領主層を一掃して中央集権化、

└徴兵制度(1822)を確立し西欧式の軍隊を組織

└ヨーロッパ向けの()15栽培を奨励→モノカルチャー化

┌()16独占の対外貿易による→財政基盤

⇒教育制度などの近代化 殖産興業の推進⇒富国強兵政策を実施

対外的には、

1818年 ()16半島に出兵してワッハーブ王国(1744~1818)を滅ぼし

1820年代 東()17を征服 ギリシア独立運動の鎮圧に参加

1830年代 ()18の領有とエジプト総督の世襲権をめぐるオスマン帝国と2度戦う

⇒()19=トルコ戦争(1831~33. 39~40)

最初ロシアがオスマン帝国を、2度目はフランスがエジプトを支援、ともにイギリスがこれに干渉

1840年 ロンドン条約

┌エジプトのシリア進出を阻止 軍備縮小 総督の()20権のみを承認

┌エジプト政府の独占的貿易はくずれて、国内にはイギリス・フランスの資本が流入

→列強はオスマンと同じ()21に基づく不平等条約を迫り実現。

⇒ムハンマド=アリー朝(1805~1953)

┌アリーの後継者たち→鉄道、電信網の建設、土地改革などの近代化

┌治外法権、関税自主権の放棄、国内市場の開放⇒経済的()22化

1869年 ()23運河❖d開通→エジプトがフランスと共同建設→外債の累積から国家財政が窮迫

❖d→外交官出身のフランス人レセップス(1805~94)の指導で1859年に着工した。

1870年代 []24戦争終結により大量のアメリカ綿花が世界に流入。価格下落。

1875年 所有するスエズ運河持ち株を()25に売却

→イギリス・フランスによる国家財政管理・内政干渉強化

→民衆に()26開設・立憲政治確立を求める運動拡大

1881年 アフマド=()27=パシヤ(1839~1911)❖eら、列強の内政干渉に反対して決起

→1882年2月に政権をにぎる⇒オラービーの反乱(1881~82) オラービー陸軍大臣就任

「[]28人のためのエジプト」→立憲制と議会開設を要求、

→()29の軍事干渉で、82年9月鎮圧。イギリスの軍事占領。

オスマン帝国領に属したまま→事実上イギリスの保護下に

❖e→エジプト生まれのアラブ人将校。外来のトルコ人や西欧諸国の支配を廃する国民運動を展開。イギリスにより

()30島に流された。「パシヤ」はオスマンの高官、軍人の称号。

ムスタファ=カミール(1839~1911)らの()31党→完全独立をめざす

イギリス=1882年以降→エジプトから南進政策→スーダンへ。

4.スーダン

ムハンマド=()31(1844ごろ~85)のマフディー❖f派のはげしい抵抗

→エジプト支配下のスーダンでの()32運動(1881~98)❖g

❖f→イスラムで救世主の意。ムハンマド=アフマドは、1881年マフディーを自称。

❖g→エジプト軍から武器を捕獲。エジプトによる重税からの解放と信仰の革新をめざし戦う。

1883年 英人退役将校ヒックス率いるエジプト軍8千を全滅させる。

1885年 中国で()33と戦った英人将校チャールズ・ゴードン率いる7千のエジプト軍をハルツームで包囲・全滅させる。

1899年 英軍、マフディー軍を破り東スーダンを占領。



バイエルン公フリードリヒ2世の冬の庭園



ムハンマド=アリー



アフマド=オラービー



ムハンマド=アフマド

- ・西欧 ・外債 ・綿花 ・国家 ・国民 ・世襲 ・通商 ・議会 ・植民地(2) ・不平等 ・スエズ ・シリア
- ・アリー ・太平天国 ・イギリス(2) ・イタリア ・エジプト ・アラビア ・スーダン ・イクター ・セイロン
- ・アフマド ・キオスク ・クリミア ・オラービー ・オリент ・マムルーク ・チュニジア ・南アフリカ
- ・チューリップ(2) ・カルロヴィッツ ・アル=ハמיד ・カピチュレーション